

Texas Pacific Land Corporation (TPL)

2026年 戦略的展望とファンダメンタルズ分析：
持続可能な高収益モデルの検証

現在株価（推定）

~\$350

時価総額

\$24.46B

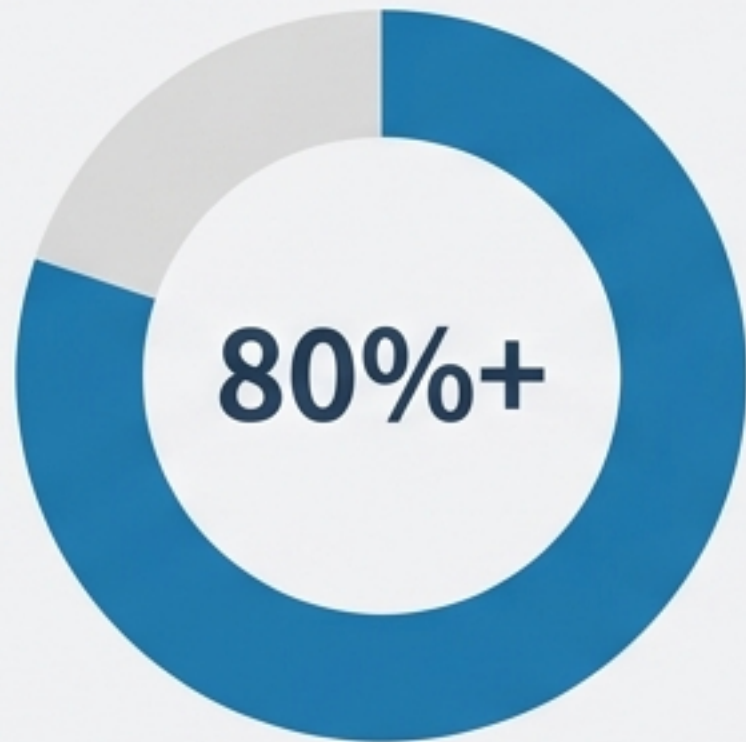
セクター

エネルギー・不動産

2026年1月29日時点

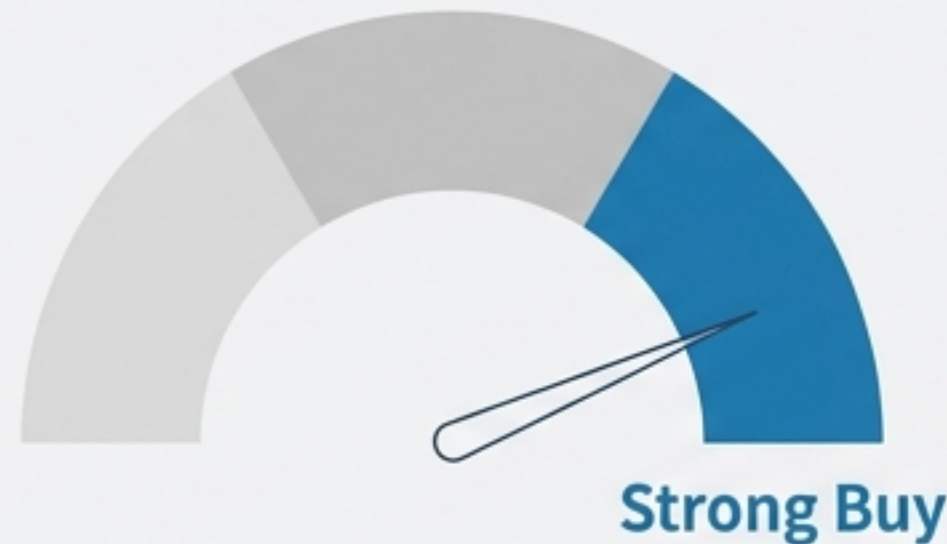
エグゼクティブサマリー：2026年に向けた強気シグナル

異次元の収益性 (Profitability)



EBITDAマージンは80%超を維持。他社を圧倒する利益率は、ロイヤリティ収入主体のビジネスモデルによるものであり、インフレやコスト増への耐性が極めて高い。

テクニカルは「強い買い」 (Technical Momentum)



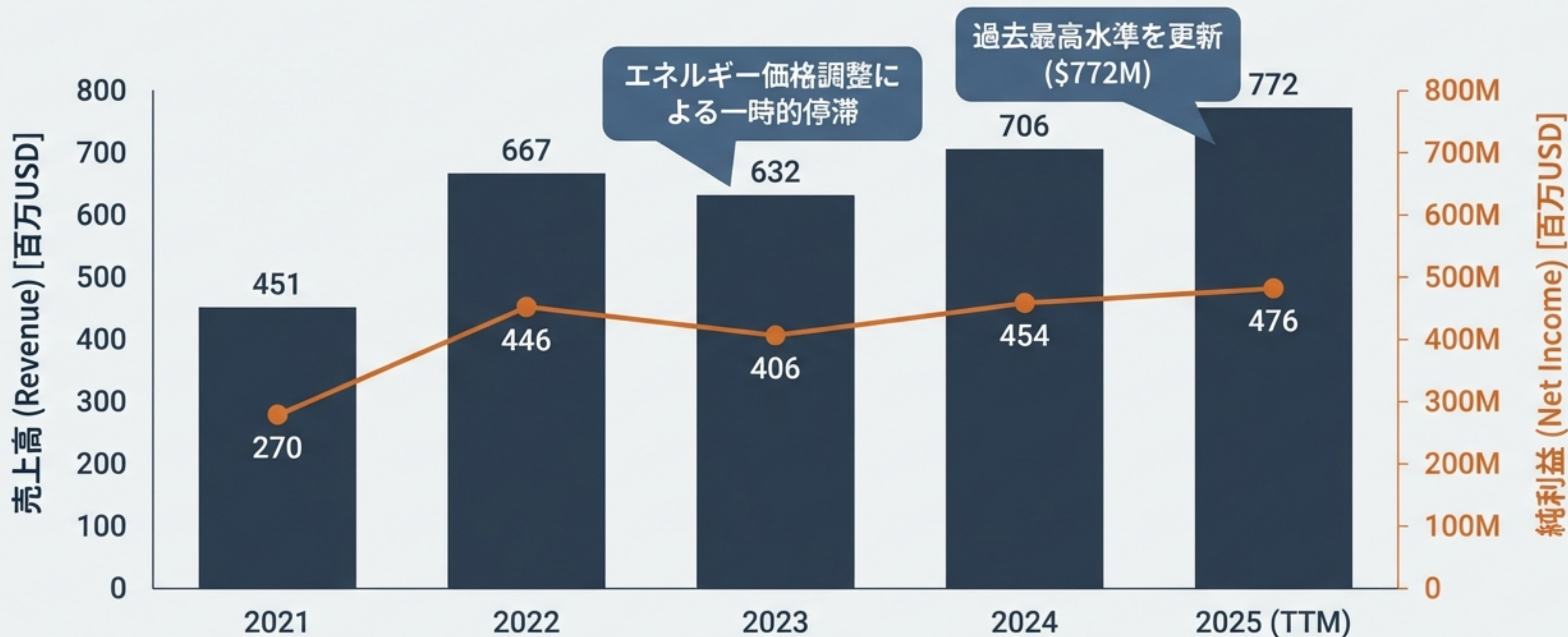
2026年初頭現在、移動平均線およびオシレーター指標は「Strong Buy（強い買い）」を示唆。週足チャートは長期的な上昇チャネルを維持している。

堅調な2026年ガイダンス (2026 Outlook)



次回決算（2026年2月19日）および2026年通期において、EPS（1株当たり利益）と売上の安定的かつ段階的な成長がコンセンサス予想となっている。

過去の業績推移（2021-2025）：再成長への軌跡



2023年の調整局面を完全に脱し、純利益（Net Income）も\$476M規模（TTM）へと拡大。
収益のボラティリティを吸収する底堅さを証明した。

圧倒的な競争優位性：80%超のEBITDAマージン

80.78%

EBITDA Margin

営業利益率: 73.41%

純利益率: 59.70%

効率性指標 (Efficiency Metrics)

ROA (総資産利益率)



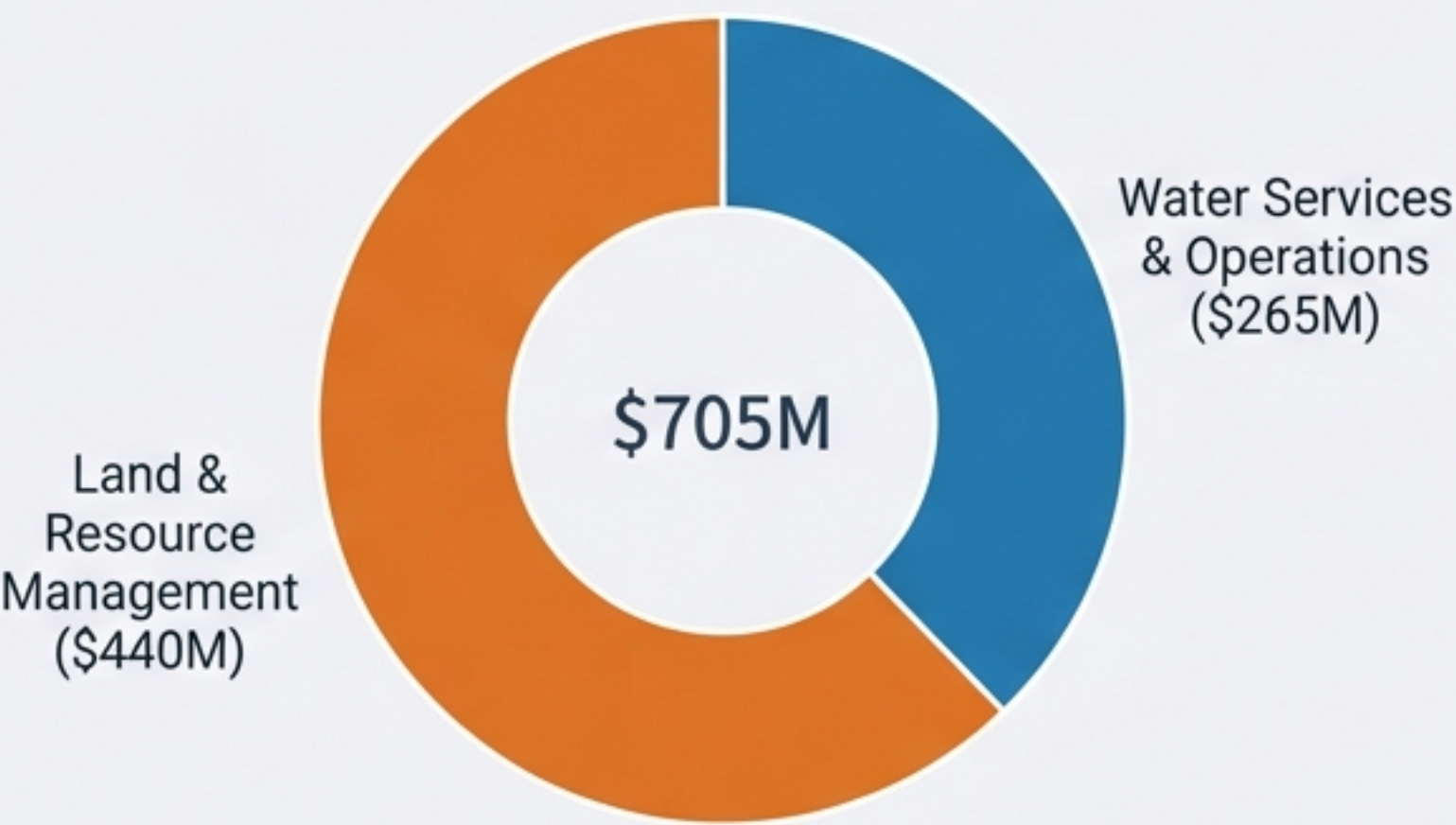
ROE (自己資本利益率)



一般的な事業会社とは一線を画す利益構造。売上の大部分がそのままキャッシュフローとなる「土地・資源管理（ロイヤリティ）」ビジネスの強みが、数字に如実に表れている。

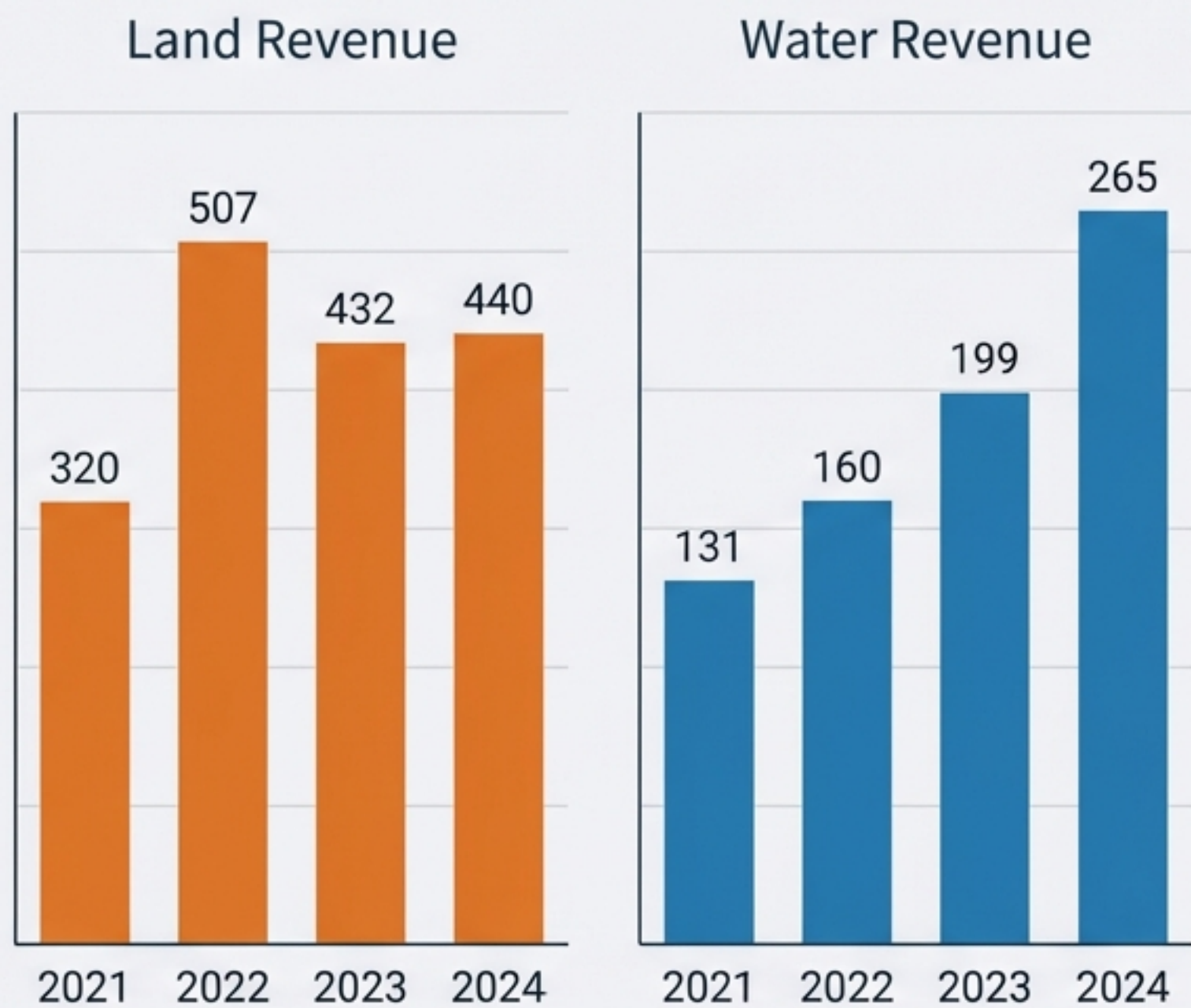
セグメント分析：安定収益と成長エンジンのハイブリッド

2024年 収益構成 (Revenue Mix)



資源価格に連動する「Land」部門のボラティリティを、需要が底堅い「Water」部門の成長が補完し、ポートフォリオとしての安定性が向上している。

セグメント別 成長推移



財務健全性：鉄壁の「無借金経営」

総資産 (Total Assets): ~\$1.60B

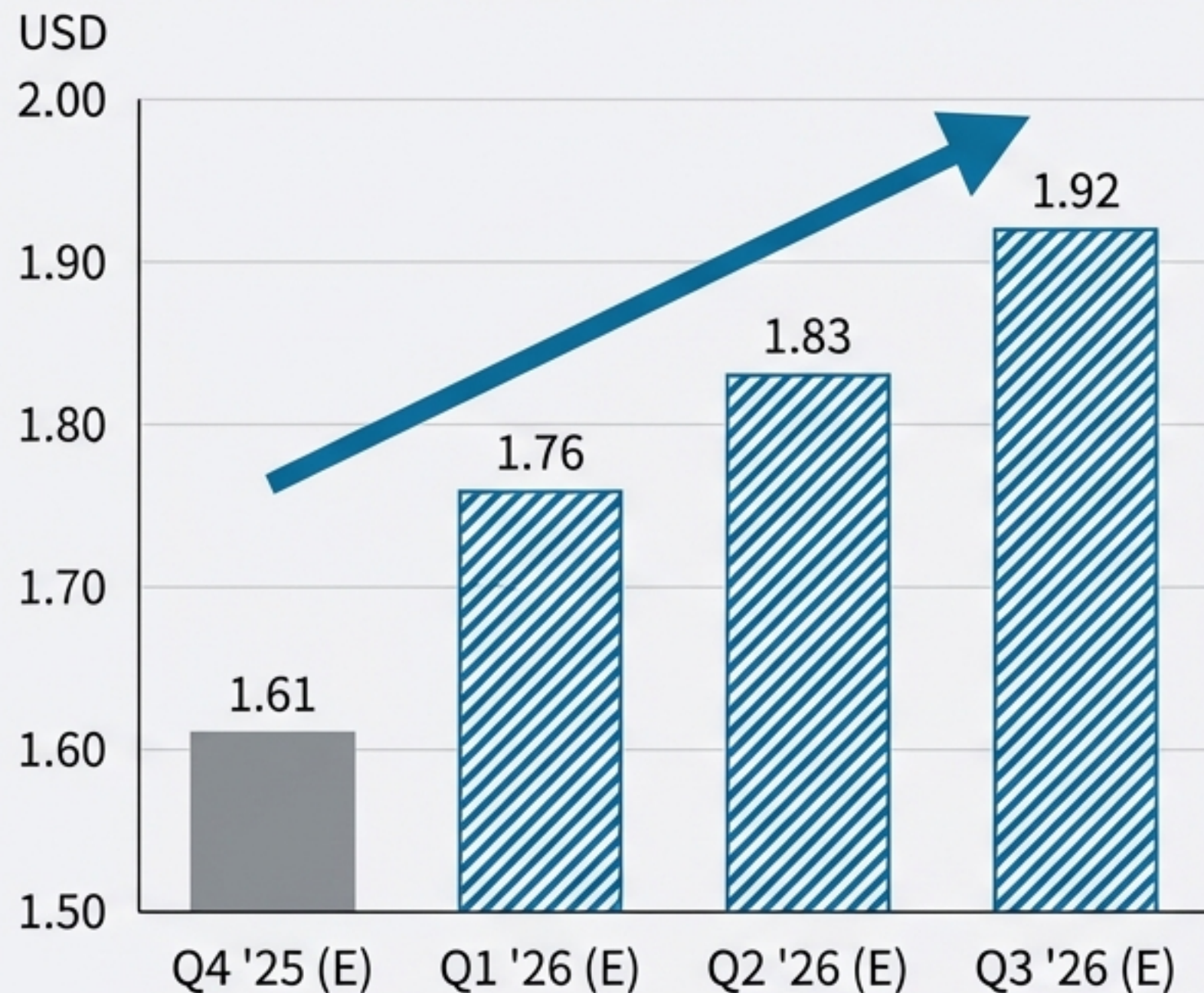


- 現金および現金同等物: \$602.92M (潤沢な手元資金)
- 負債合計: \$16.51M (極めて限定的)

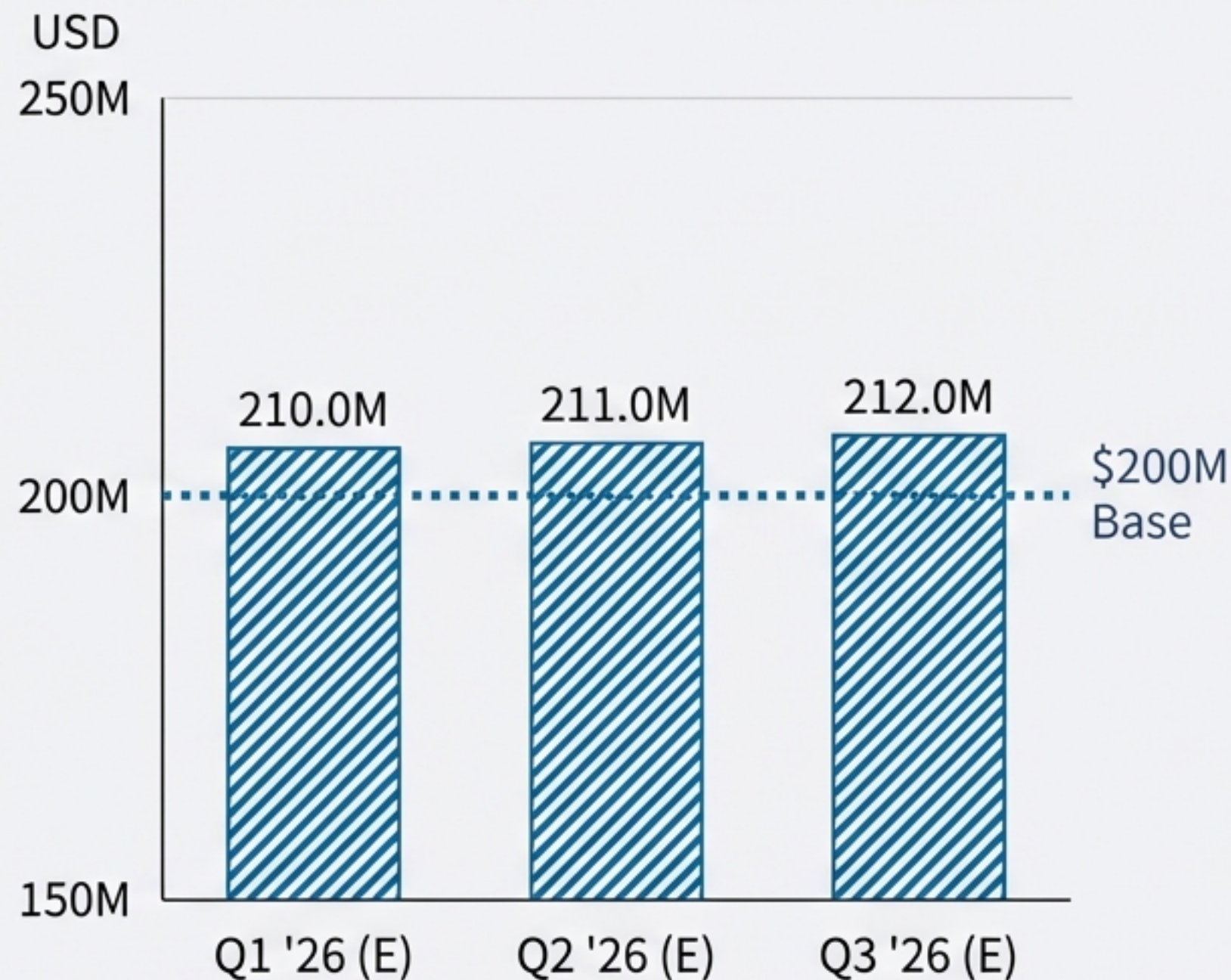
実質的な無借金経営 (Debt-Free)。金利上昇局面でも財務コストの圧力を受けず、潤沢なキャッシュを自社株買いや配当、あるいは戦略的投資に回すことができる「選択の自由」を持っている。

2026年 業績展望とコンセンサス予想

EPS（1株当たり利益） 四半期予想



売上高（Revenue） 四半期予想



市場はTPLに対して、爆発的な急騰ではなく、予測可能で安定した「階段状の成長」を織り込んでいる。2026年2月19日の決算発表が、この成長シナリオの試金石となる。

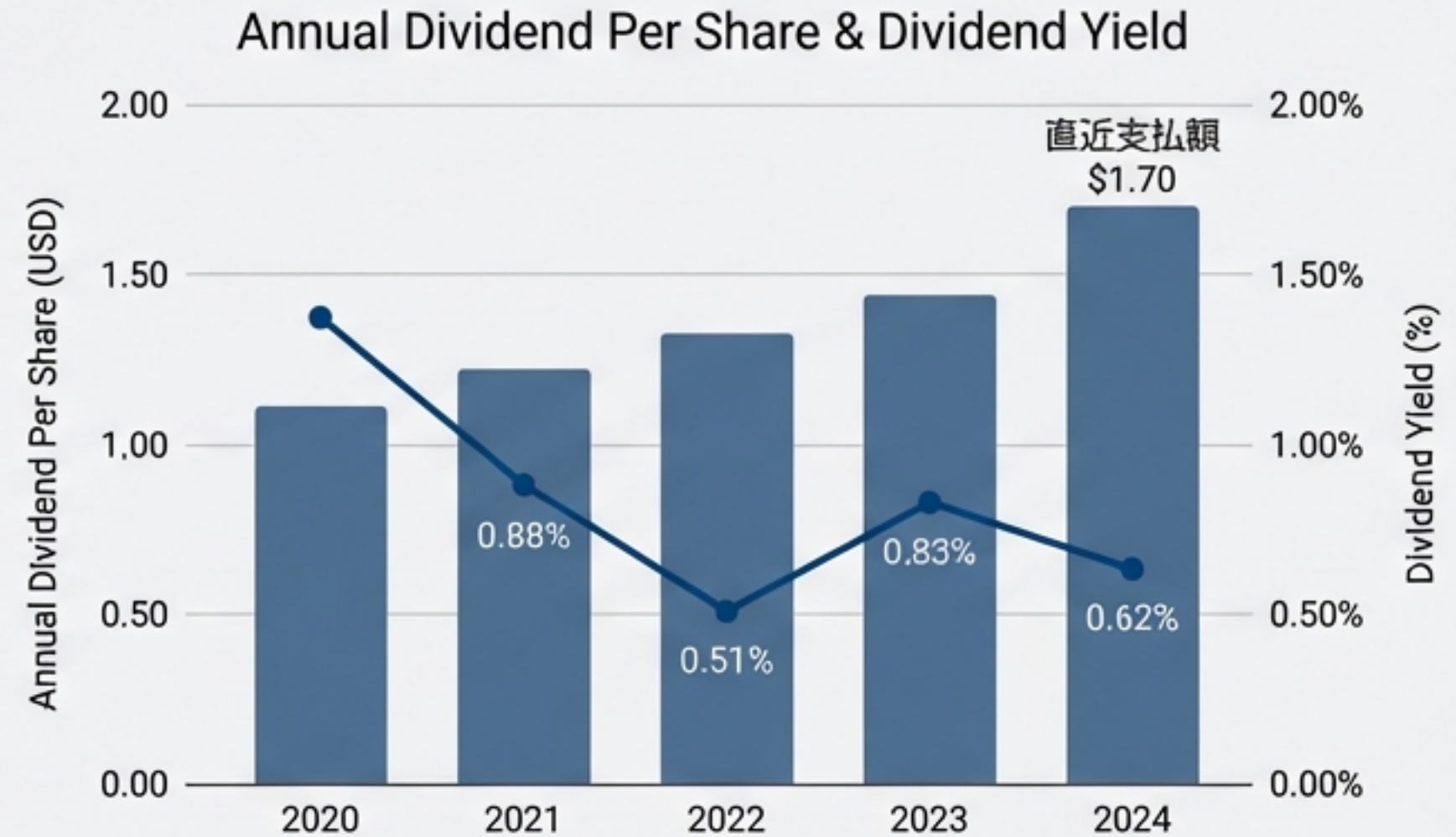
バリュエーションと株主還元

Valuation Context

PER 50.02x

市場平均より高いが、これは
「高収益・無借金・高成長」への
プレミアム評価である。

Dividend Growth



インカムゲイン（配当）よりもキャピタルゲイン（株価上昇）への期待が
大きい銘柄だが、増配傾向は株主還元の意思を明確に示している。

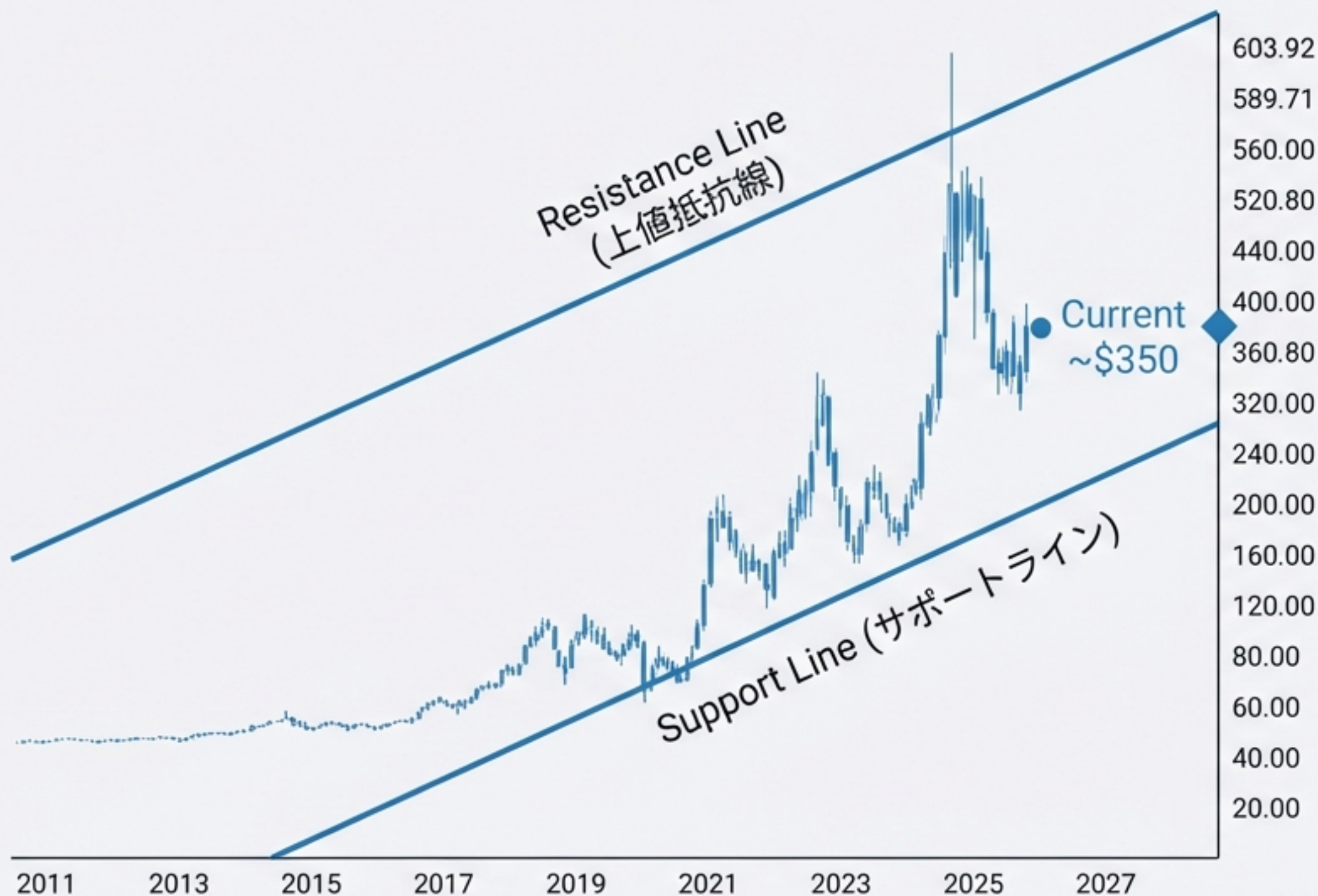
テクニカル分析：市場センチメントは「強気」



指標 (Indicator)	シグナル
移動平均線 (Moving Averages)	強い買い (Strong Buy)
モメンタム (Momentum)	買い (Buy)
MACD レベル	買い (Buy)
RSI (14)	中立 (Neutral - 57.39)

短期・中期・長期（SMA200日線を含む）のすべてにおいて価格が上回っており、「買い」シグナルが点灯。RSIは中立圏にあり、過熱感なく上昇余地を残している。

プライスアクション：上昇チャネルの継続



週足トレンド: 長期的な上昇平行チャネル (Parallel Channel) の中を推移。

現在位置: チャネルの中間ライン付近に位置し、上値抵抗線に向けた上昇余地がある。

結論: ファンダメンタルズの成長と株価のトレンドが完全に同期している。2026年もこのチャネル内での堅調な推移がメインシナリオ。

結論：クオリティ・コンパウンダーとしてのTPL

1

盤石な収益構造



80%超のEBITDAマージンと無借金経営は、不確実な市場環境における最大の防御かつ武器である。

2

成長の継続性



水事業の拡大と資源価格の安定により、2026年はEPSの段階的な上昇が予測される。

3

好機 (Opportunity)

テクニカル指標は「強い買い」を示しており、ファンダメンタルズを価格が正当に評価している局面。

バリュエーションの高さは「質の高さ」の証左。長期的な資産形成において、ポートフォリオのコアとなり得る強力なファンダメンタルズを有して2026年を迎えている。